

首都圏災害への対応と医薬品物流の効率化を実現 都心部に高機能物流センターを新設

東邦ホールディングス株式会社様(本店:東京都世田谷区)は、東京都大田区に建設を進めていた高機能物流センター「TBCダイナベース」を2020年9月に稼働しました。

TBCダイナベースは、災害時にも医薬品を安定供給できる流通体制のさらなる強化を目指すとともに、今後の新薬の主流となる希少疾病用医薬品をはじめとするスペシャリティ医薬品などに求められる高品質の物流機能に対応しています。さらにまた、最新鋭ロボットなどの大規模導入による自動化の徹底、共同物流・共同配送による物流の飛躍的な効率化を実現した高機能物流センターです。

災害対応を確立し 顧客や社会に貢献する物流拠点

TBCダイナベースは首都圏災害への対応を基軸の1つとしており、東京都が指定する災害時広域輸送基地「京浜トラックターミナル」内に建設され、首都圏の大動脈である環状7号線内に位置する唯一の医療用医薬品物流センターとして、災害時の医薬品配送拠点



5階建ての建屋のうち2階から5階が「TBCダイナベース」

の役割も担います。建屋だけでなくランプウェイにも免震構造を採用していることに加えて、大型の自家発電装置を

備え、有事の際も72時間フル稼働が可能です。

この他、医薬品の国際的な適正流通基準「PIC/S GDP」に準拠したことや、夜間電力を利用した省エネルギー化などに取り組み、顧客や社会により貢献する物流拠点となっています。

出荷精度セブンナイン以上 ピースピッキングの自動化率95%

TBCダイナベースの延べ床面積は5万766㎡。約2万5,000品目の医療用医薬品、医療機器、医療材料などを取り扱い、東京や神奈川、千葉、加えて長野、山梨、静岡、新潟、宮城、山形エリアへ出荷します。

同社はこれまで、最新のロボット技術やマテハン設備を導入して医薬品流通の革新的な物流拠点となる「TBC埼玉」(埼玉県久喜市)を2013年、「TBC広島」(広島市安佐南区)を2018年に



元梱単位の出荷、ロボットピッキング用の容器へ移し替えるための出庫などを行う元梱自動倉庫。

稼働し、出荷精度セブンナイン(99.9999%)を実現しました。

新たに構築したTBCダイナベースでは、出荷精度セブンナイン以上を実現するとともに、ピースピッキングの自動化率は95%を達成しています。パレット単位や元梱(段ボールケース)で入荷した商品は、元梱単位やピース単位で出荷します。このため、デパレタイズやピースピッキング、出荷用カーゴ台車の積み付けなどにロボットを多数採用したほか、センター内の工程をつなぐバッファ

設備として各種の自動倉庫を大規模に導入し、省人化しながらもスムーズなモノの流れをつくり出し、大幅な効率化を図りました。

また、自動倉庫内のロケーションをコンピューターで完全に管理することにより、TBCダイナベースは医薬品の保管場所を共有する医薬品卸の共同物流・配送センターとして国内で初めて東京都より許可を取得し、酒井薬品株式会社(本社:東京都)との共同物流を実現しています。



バラピッキングエリアでは、ロボット26基が1時間当たり1万5,000個をピッキングする。



パレット入庫品は自動倉庫に一時格納後、デパレタイズロボットのステーションへ供給される。



パレットから1箱ずつ元梱を降ろし、コンベヤに投入するデパレタイズロボット。



ピッキングした商品を保管するマージストレージでは、出荷用オリコンに詰め合わせるトレーがすべて揃うと出庫を行う。



多様なサイズの元梱を、最適な積み付けパターンで出荷用のカーゴ台車に自動で積み付けるロボット。